

# 障害福祉施策と保健活動 —「みる」「つなぐ」「動かす」—

報告書

平成 27 年 3 月



## はじめに

昨今、地域における保健師の活動は、介護保険法の改正による地域包括支援センターの設置や地域包括ケアシステムの推進、特定健康診査・特定保健指導の導入、がん対策、自殺対策等大きく変化している。

このような状況の中、平成 25 年 4 月の厚生労働省健康局長より、「地域における保健師の保健活動について」を都道府県に通知し自治体保健師の保健活動の基本的な方向性として保健活動指針を示し、平成 15 年 10 月の「地域における保健師の保健活動について」は廃止された。

新指針では、保健師の活動体制と機能を高める 4 つの「記」として、記 1 に「保健師の活動体制と活動方法」、記 2 に「保健師の計画的・継続的確保」、記 3 に「分散配置と総括保健師の配置」、記 4 に「人材育成」と掲げられている。

当市においても、保健師の活動は幅広く拡大し、配属分野は保健衛生の所管だけでなく、介護や障害等に配置されている。従来保健衛生部局が中心となり保健師活動や人材育成を行ってきたが、分散配置されたこと等から保健活動も組織横断的な活動が容易ではなくなってきた。現在当市では、統括保健師の位置づけが職責となっていないことから、書類や会議等の情報提供の役割にとどまっており、保健師全体の人材育成に至っていない。

今回、障害福祉課分野の保健師資格を持つ課長として、障害福祉施策の企画、立案、実施、評価方法について推進していく過程を通じて、どの分野に保健師が配属されても、「地域をみる、つなぐ、動かす」という活動について組織横断的に検討できるような方法について調査研究を行ったので報告する。

平成 27 年 3 月

三重県桑名市保健福祉部障害福祉課 黒田 由美子



## 目 次

<b>I 部</b>	<b>研究史と目的</b>	…1
第1章	研究背景	…1
第1節	保健師の活動に関する研究	
第2節	本市の保健師配置状況	
第3節	先行研究に残された課題	
第4節	本研究の位置づけ	
第2章	本研究の目的	…5
<b>第II部</b>	<b>実証的研究</b>	…6
第3章	予備研究1 障害者計画・障害福祉計画作成のための横断的会議 の実施	…6
第1節	目的	
第2節	方法	
1	事例検討やミドリモデルの手法を応用したアンケート作成等 を取り入れた横断的会議の実施	
第3節	結果	
第4節	考察	
第4章	予備研究2 計画づくりマニュアルの作成	…11
第1節	目的	
第2節	方法	
1	計画づくりマニュアルの作成	
第3節	結果	
第4節	考察	
第5章	第1研究 計画づくりマニュアルの効果検証	…13
第1節	目的	
第2節	方法	
1	計画づくりマニュアルの効果	
第3節	結果	
第4節	考察	

第Ⅲ部	全体的考察	…24
第6章	全体的考察	…24
第1節	本研究の結論	
第2節	今後の課題	
第Ⅳ部	引用文献	…26
謝辞		…27
資料		…28
資料1	計画づくりに関する調査	…28
資料2	計画づくりに関する調査結果	…32
資料3	初版 全員参加型計画づくりマニュアル	…41
別冊	第3期桑名市障害者計画及び第4期障害福祉計画	

## 第I部 研究史と目的

### 第1章 研究背景

#### 第1節 保健師の活動に関する研究

保健師の活動に関する研究は、数多くなされてきた。

坪内・大川・岩村（2007）は、地域の健康課題解決に向けて、看護系大学教員が行政に所属する保健師と協働し、研究活動と教育活動とを連動させ実践していくためのあり方や方法を検討した。

種村・松下・大川・山田・大井（2013）は、保健師の日常活動の充実や改善と保健師の実践能力向上につながる活動評価方法を開発することを目指し、わが国の保健師活動の評価に関する文献を調べ整理し、保健師活動評価の実際を確認した。保健師が活動する際には、計画・実施・評価という看護過程が展開されている。

田中・小野・小西（2005）は、先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達の研究で、キャリア発達の特質として「働く女性としての道を切りひらくこと」「保健師として目指す方向を持ち続けること」「活動を振り返りながら実践能力を高めること」「サポートネットワークを作り出すこと」「キャリア発達の基礎となる資質を持っていること」の5つが見いだされたと述べている。

高橋・高尾（2007）は、地区診断の必要性を感じながらもその取り組むに困難を感じている保健師の現状が推察された。その中でも、年齢や保健師経験年齢が長い、保健師基礎教育の地区診断に関する受講の実践への役立ち感がある、就職後の地区診断に関する研修の受講経験があり、地区診断の必要性を感じている、日頃の業務で保健活動の評価を実施していると回答した人は、そうでない人より地区診断を実践していることがわかった。これらは、保健師個々に関連する要因だけでなく、保健師活動の関連する要因も含まれている。地区診断実践を促進する状況が整えば、根拠のある保健活動につながり、地域の健康が向上することが期待できると述べている。

松尾（2010）は、保健師がどのような経験から何を学んでいるかを探索的に検討し、分析の結果、保健師は、「困難事例の対応」「地域支援」「管理職の経験」「研修会への参加」といった経験を通して、「地域・他者との連携」「寄り添いと関係構築」「保健師としての専門性」「マネジメント力」「保健師の役割」を学んでいる。保健師は、問題を抱える対象者の個別アプローチから地域の健康課題を見つけ、地域や他者との連携をとりな

がら地域の仕組みづくりを支援することで、個別対象者の健康を促進している。こうしたマイクロレベルの活動とマクロレベルの活動を連結する経験を通して、保健師は、「個人及び集団との関係構築能力」を獲得しながら熟達していくと考えられると述べている。

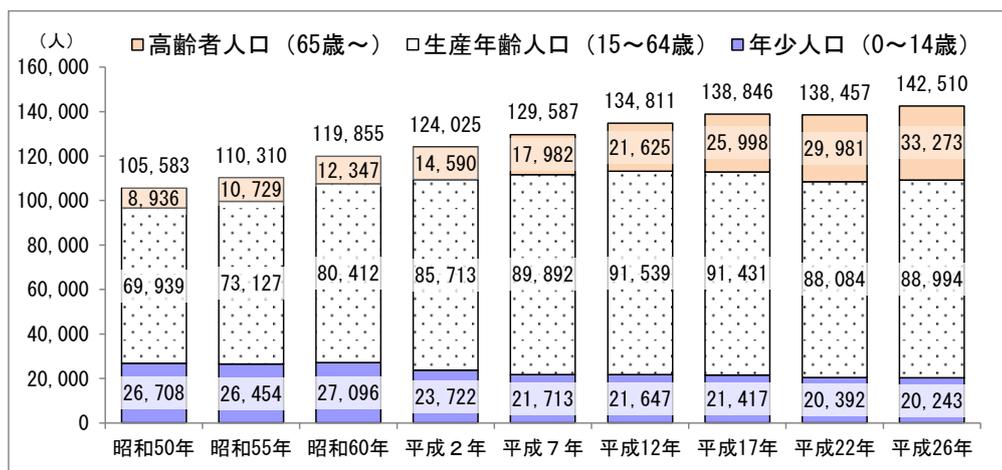
松下・石丸・山田（2012）は、行政保健師の実践経験からの学びの中で、看護職としての基礎教育の上に積み上げる内容があることが確認できている。具体的には、「個人・家族への援助に関する学び」「個と地域全体を関連させた学び」「地域全体を対象とした活動方法に関する学び」は看護職としての、また、生活集団を対象とした看護活動の基本的考え方に関わる内容であり、基礎教育において学ぶ内容であると述べている。

日本看護協会（2013）は、市町村保健活動のあり方に関する検討報告書Ⅲにおいて、市町村は、国の多省、他課から各種縦割りの計画を基づく多くの事業を担うことになり、業務はより煩雑化している。その結果、事業の前例踏襲や形骸化、効率性重視の波に翻弄され、目的を見失った業務過多に陥っている感も否めなく、保健師本来の地域・住民ニーズを俯瞰して優先度判断のもとに活動することが困難になりつつあることが指摘している。「活動を皆で共有していく戦略」「組織の中の情報を整理し、共有する仕組み」が必要であると述べている。

## 第2節 本市の状況

本市の人口は増加傾向にあり、平成26年3月31日現在では142,510人となっている。年齢3区分別でみると、0～14歳（年少人口）及び15～64歳人口（生産年齢人口）は、減少傾向にあるが、65歳以上人口（高齢人口）は増加傾向にある。

図1 年齢3区分別人口の推移



資料：昭和50年～平成22年までは総務省「国勢調査」各年10月1日、平成26年は3月末現在の住民基本台帳及び外国人登録人口

本市の保健師は、平成27年3月1日現在24名である。所属については、保健衛生の所管に14名、うち1名は課長職、2名は係長職である。介護高齢の所管に3名、うち1名は課長補佐職である。障害福祉の所管に2名、うち1名は課長職である。保険年金所管に1名、2か所の支所に各2名の保健師が設置され、1名は課長補佐職である。

表1 本市保健師の設置状況

単位：人

所管名	保健衛生	介護高齢	障害福祉	保険年金	A支所	B支所
人数	14	3	2	1	2	2
役職	課長1 係長2	課長補佐1	課長1		課長補佐1	

\*平成27年3月1日現在（平成26年10月配置がえ有）

表2 保健師の従事年数

従事年数	5年未満	5年以上	10年以上	20年以上	30年以上	計
人数	6 (25%)	4 (16.7%)	8 (33.3%)	3 (12.5%)	3 (12.5%)	24

\*平成27年3月1日現在

\*当市の勤務年数。従前の勤務は含まない。

### 第3節 先行研究に残された課題

保健師の活動に関する先行研究に残された課題は以下の通りである。

坪内・大川・岩村（2007）は、今後の課題として地域の健康課題解決に向けて教員が保健師とどのように相互理解や関係を深めていき結果を両方で活用できるための具体的な方策を明らかにすることを挙げている。

高橋・高尾（2007）は、地域診断実践に影響する要因に関する研究の中で、今後の展望として、新任期に保健活動の実践が豊かな保健師と組んで担当地域の実態把握を実践し、職場内研修として習得できるようなプログラムが必要であると述べている。

日本看護協会（2013）は、市町村保健活動のあり方に関する検討報告書Ⅲにおいて、保健師本来の地域・住民ニーズを俯瞰して優先度判断のもとに活動することが困難になりつつあることが指摘されている。「活動を皆で共有していく戦略」「組織の中の情報を整理し、共有する仕組み」が必要であると報告している。

## 第4節 本研究の位置づけ

本研究は、著者が勤務するK市において、障害福祉課所管の課長として障害者計画・障害福祉計画（以下「計画」という。）を作成するに当たり、ヘルスプロモーションの概念やミドリモデルの手法を取り入れ保健師にフィードバックすることや「みる」「つなぐ」「動かす」ことにつながる計画づくりマニュアルの作成を行う。

尚、ミドリモデルの手法は、著者が母子保健や健康増進等の他の計画づくりで使用した経験から、今回、障害施策の課題やアンケート作成においてミドリモデルの枠組を計画づくり活用した。

## 第2章 本研究の目的

先行研究では、保健師が職場内研修として地区診断を習得できるようなプログラムの必要性や今後の保健師活動は、「活動を皆で共有していく戦略」「組織の中の情報を整理し、共有する仕組み」が必要であることが述べられている。しかし、著者が検索した範囲では、職場内で実践的な地区診断のプログラムや組織横断的に情報を整理し共有するための研究は発見することができなかった。

本研究では、障害福祉分野の計画づくりや多職種の自主勉強会等の実践から、保健師が計画づくりや事業の企画をする際に必要な知識を明らかにし、保健師活動の本質である「地域をみる、つなぐ、動かす」活動のために多職種や市民と協働して行えるような知識と技術の向上を図ることを目的とする。

以下、本研究では保健師が計画づくりに必要とする知識を明らかにするために予備調査を行う、予備調査に基づき計画づくりマニュアルを作成する。またこのマニュアルによって、本市の保健師が各分野に配置されても、「地域をみる、つなぐ、動かす」という活動を行うことが容易となることを検証する

。

## 第Ⅱ部 実証的研究

### 第3章 予備研究 1 障害者計画・障害福祉計画作成の横断的会議の実施

#### 第1節 目的

障害者基本計画（第3次）は、障害者基本法第11条第1項に基づき、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するものである。障害者施策において、重症化予防のためのリハビリや自立支援のためのサービス提供の在り方等は、保健活動の「予防介入の重視」と目的は同じである。その手立ての一つとして、障害者の就労やスポーツ・文化振興等関連課が連携し推進していくことも必要なせさくである。

障害施策の総合的かつ計画的な取組の推進をはかるために、保健福祉部局だけでなく、政策関係や人事関係、財政関係、防災関係、商工関係、農林関係、都市整備関係、土木関係、教育関係の係長を委員とし組織横断的な会議を開催する。

本研究は、この会議に参加した介護高齢や保健衛生所管の保健師2名及び障害福祉課の事務局2名の保健師が組織横断的な会議運営について実践を通して知識や技術の向上を図ることを目的とする。

#### 第2節 方法

##### 1 事例検討やミドリモデルの手法を応用したアンケート作成等を取り入れた横断的会議の実施

###### 1) 事例検討の実施

計画作成の庁内会議に参加した職員の多くが、障害福祉の所管を経験していないことから、課題を共有するために、障害者の思いを理解することが必要であると推察し初回の会議に下記の内容について事例検討を行った。

- (1) 事例            年齢40歳の男性が、交通事故により両下肢機能不全や高次脳機能障害が残った。

- (2) グループ 4グループ 1グループ7人程度
- (3) 方法 事例について、自分がその立場になった時にどのように思うかについてグループで協議し思いをまとめる
- (4) 協議内容
  - 1回目 事故から1週間後の気持ち
  - 2回目 事故から1か月後の気持ち
  - 3回目 退院後の気持ち

(5) 協議の結果

事故から1週間後の気持ちについては、「生活や仕事への不安」「どうしてこんなことになったのかという後悔」、退院後は、「生活支援サービスや同じ状態の人の情報がほしい」等、各グループメンバーは熱心に協議し、障害者の思いを共有できたと推察している。

## 2)ミドリモデルの手法を応用したアンケート作成の実施

(1) インタビューの実施

計画策定の基礎資料となるアンケート項目に反映させるために、障害者団体の会員の方に対して、困りごとや生活の実態を聞き取り、テープ起こしを実施した。インタビューは、「当市でどんな暮らしをしたいか」「当市がどんなまちだったら住みやすいか」「現在の暮らしの中で困っていること」「より良い生活のために、ご自身ができることは」の内容である。インタビュアーは保健師が担当した。

(2) 会議でアンケート項目として必要な内容を協議

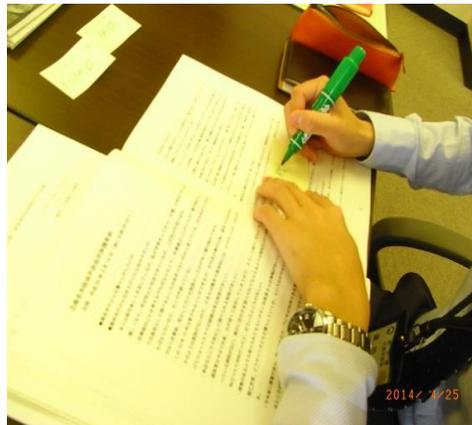
会議の委員が下記の流れで協議し必要なアンケート項目を抽出した。

(\*写真の人物は、**アート処理**実施)

①インタビューの内容を読んで、障害のある方や家族の困りごと等を知る。



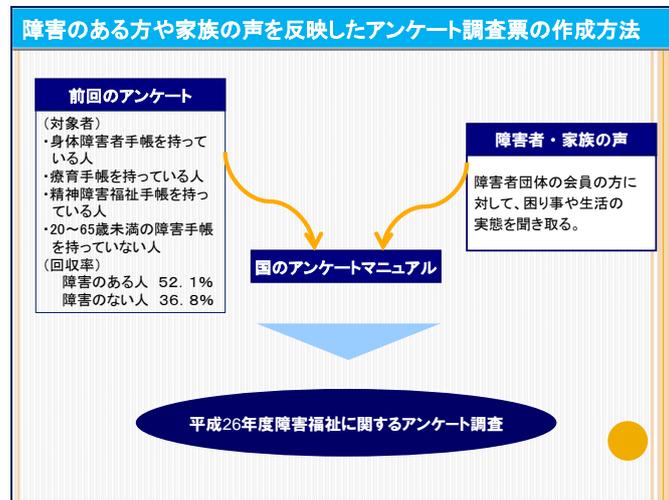
②インタビューの内容で気になったことばに線を引き、「付箋」に記入しみんなで内容を共有した。



③ミドリモデルの枠組みに付箋を貼り、障害のある人の困りごとの全体像を確認し各グループが発表を行った。



- ④国や前回の計画のアンケート内容に含まれていない項目で、今回のアンケートに反映させたほうが良い項目を協議した。



### 第3節 結果

事例検討を取り入れた組織横断的会議の実施では、事故から1週間後の気持ちについては、「生活や仕事への不安」「どうしてこんなことになったのかという後悔」、退院後は、「生活支援サービスや同じ状態の人の情報がほしい」等、各グループで障害者の立場に立って思いを共有できたと推察している。

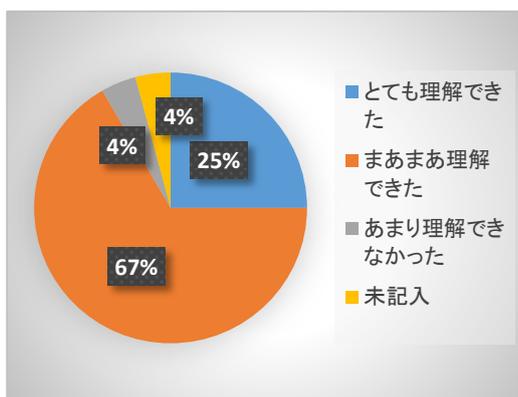
ミドリモデルの手法を応用したアンケート作成の実施では、委員がインタビュー内容を読み、気になった言葉をミドリモデルの枠組みに落とすことで、障害者のQOLや生活状況が見える化でき、精神や身体、知的障害のある当事者や家族の思いを理解し、全庁的に障害福祉施策を協議する機会となった。

横断的会議の参加者のアンケート調査では、表3のとおり「最初の庁内会議の時と比較し、障害のことが理解できたか」の問に対して、「とても理解できた」「まあまあ理解できた」が92%であった。「庁内会議に参加して、障害者の困り事や不安等知る機会になったか」の問いでは、「とても良い機会になった」「まあまあ良い機会になった」が96%であった。

表3 横断的会議参加者アンケート調査の結果

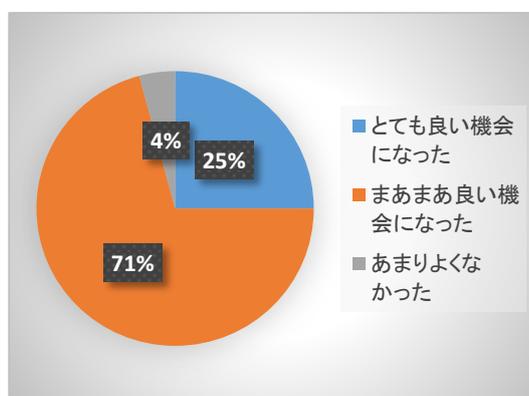
問 あなたは、最初の庁内会議の時と比較し、障害のことが理解できましたか。

	とても理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	未記入
人数	6	16	1	1



問 庁内会議に参加して、障害者の困り事や不安等知る機会になりましたか。(○はひとつ)

	とても良い機会になった	まあまあ良い機会になった	あまりよくなかった
人数	6	17	1



#### 第4節 考察

会議の委員として、著者の所管の保健師と介護高齢、保健衛生の保健師4名が計画づくりに携わった。障害福祉分野に携わったことのない参加者が障害のある人の思いや困りごとについて理解できるように、事例検討やミドリモデルの手法を応用したアンケート作成は、参加した保健師が会議運営について実践的に学ぶ機会となったと推察する。

## 第4章 予備研究2 計画づくりマニュアルの作成

### 第1節 目的

障害福祉分野の計画作成の実践を通して、保健師活動の本質である「地域をみる、つなぐ、動かす」ための活動を多職種や市民と協働して行うために必要な情報を記述した実践的効果的な計画づくりマニュアルを作成する。

### 第2節 方法

#### 1 計画づくりマニュアルの作成

##### i) 自主勉強会の実施によるマニュアル掲載の内容を検討

参加者が学習したい内容を把握し、講師による学習の機会提供とマニュアルに掲載する項目の把握のために、時間外の自主勉強会を開催した。自主勉強会については、多職種連携の場として保健師以外にも参加を呼び掛けた。

自主勉強会の内容については、表3のとおりである。

表4 自主勉強会の実施状況

年月日	参加人数	時間	目的	実施内容
平成26年 7月24日	16名 (内保健師 5名)	18:00～ 19:30	・市民参加型について 知る。	講義 講師 長崎大学東京事務所 広報戦略本部准教授 医学博士 堀口 逸子氏
8月29日	7名 (内保健師 5名)	18:00～ 19:30	・計画作成の手法の一つ としてミドリモデル を知る。	講義 講師 長崎大学東京事務所 広報戦略本部准教授 医学博士 堀口 逸子氏
平成27年 3月13日	34名 (内保健師 11名)	18:00～ 20:00	・事業・計画づくりの流 れがわかるようにな る。	異業種研修会 内容 計画づくりマニュアルの説明 担当 N保健師 I事務職

第1回勉強会において、計画づくりをすすめていくために参加者が学習したい内容を確認しKJ法を用いて整理した。整理した項目は以下のとおりである。

- ①計画作成の流れ
- ②スケジュール管理
- ③会議の運営方法
- ④過去のデータをどのように生かすのか
- ⑤当事者の意見をどのようにヒヤリングするのか
- ⑥アンケートの作成の方法
- ⑦アンケート結果の分析
- ⑧会議や検討の論点を明確にする方法
- ⑨資料の作成方法
- ⑩評価の仕方

## 2) 計画づくりマニュアルの作成

計画づくりを進めていくために学習したい項目について、当市の計画作成過程を記述した「初版 全員参加型計画づくりマニュアル」を有志により作成した。

## 第3節 結果

今回、障害福祉分野の作成の実践を通して、必要な内容を取り入れた計画づくりマニュアルを作成することができた。計画づくりのマニュアルは、資料3のとおりである。

## 第4節 考察

前記の I 部研究史と目的の第 2 章 本研究の目的で示した平成 25 年 4 月に厚生労働省健康局が「地域における保健活動について」、第一の保健師の保健活動の基本的な方向性の中で、部署横断的な保健活動の連携及び共同の必要性が掲げられている。当市では保健師以外に専門職として、管理栄養士や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、歯科衛生士、看護師等各部局に多数配置されている。今回、多職種による自主勉強会を行ったことで顔の見える関係ができたと推察する。

日本看護協会（2013）の保健活動のあり方に関する検討報告書の「活動を皆で共有していく」「組織の中の情報を整理し共有する仕組み」として、今回のマニュアルは計画を進めてきた実践を通して作成したものであり、計画づくりだけでなく事業の企画立案に保健師等がスタッフと情報等を共有し活用できると推察する。

## 第5章 第1研究 計画づくりマニュアル使用の効果

### 第1節 目的

本研究で作成した計画づくりマニュアルを使用することで、計画づくりや事業を企画立案する際に保健師が各分野において保健師活動の本質である「地域をみる、つなぐ、動かす」に向けた活動を行える内容として、情報等共有し活用できるかについて意識の変化等から効果を検証した。

### 第2節 方法

#### 1) 計画づくりマニュアルの説明前後にアンケート調査を実施

このマニュアルの効果について、第 3 回自主勉強会開催時に計画づくりのマニュアルを説明する前と説明した後（以下「説明前後」という）のし、説明前後に資料 1 のアンケート調査を実施した。以下、回答者、調査方法、質問紙の構成を説明する。

(1) 回答者

調査対象者は、自主勉強会に参加し計画づくりマニュアルの説明を受けた 34 名である。調査を行う前に、説明前後にアンケート調査を行うことを説明し、調査の合意を得た。調査は強制するものではなく、回答をしなくても不利益を被らないことを説明した。分析の対象者は、マニュアル説明前後のアンケート調査に回答を得た多職種（保健師 11 名を含む）参加者 34 名とした。回収率は、100%であった。

(2) 調査時期

平成 27 年 3 月 13 日

(3) 調査方法

個別自記入形式の質問式調査で実施した。

(4) 調査内容

フェースシートについては、職種や年齢により本人が限定されることから、性別のみとした。マニュアル説明前の質問は Q1 から Q9、訪問後 Q1 から Q8 で構成した。説明前質問紙調査は、9 項目で小問 45、説明後質問紙調査は、8 項目で小問 32 で作成した。

## 第3節 結果

### 1 計画づくりの担当を打診された時の思い

計画づくりのマニュアルを説明前後では、説明後のほうが「忙しいのでやりたくない」「知識がなく不安なのでやりたくない」の問いについて、「あまり思わない」「思わない」等の正の個数が増加した。

## 問2 計画づくりの担当打診されたらどのように思うか

### Q2-1 忙しいのでやりたくない

Q2-1前	Q2-1後						総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない	-99:無回答	
1:かなり思う	4						4
2:思う		5	4	1			10
3:少し思う			9	3			12
4:あまり 思わない				6		1	7
5:思わない							0
-99:無回答				1			1
総計	4	5	13	11	0	1	34
正の個数=	8		0=	24		負の個数=	0

### Q2-2 知識がなく不安なのでやりたくない

Q2-2前	Q2-2後						総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない	-99:無回答	
1:かなり思う	4	2	2				8
2:思う		4	6	2			12
3:少し思う			5	2			7
4:あまり 思わない				5			5
5:思わない							0
-99:無回答			1	1			2
総計	4	6	14	10	0	0	34
正の個数=	14		0=	18		負の個数=	0

## 2 計画を作成する際の実施の仕方について

計画づくりのマニュアルの説明前後では、説明後のほうが「スケジュール」「担当の役割」「予算の確保」「策定委員の公募」「障害施策の課題や目指す方向の整理の仕方」「プロポーザルの方法」「計画策定のための組織」「アンケートの方法」「見込み量の算出方法」「会議の実施方法」「見える化」「パブコメ」「議会への報告」の問いについて正の個数が増加した。

問7. 計画を作成する際にどのように実施していけばよいかわかりますか

Q7-1 スケジュールについて

Q7-1前	Q7-1後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	1	1	4				6
2:あまりわからない	1	4	11				16
3:少しわかる			5	1			6
4:わかる			1	1	1		3
5:よくわかる							0
-99:無回答			1	2			3
総計	2	5	22	4	1	0	34
正の個数=	18		0=	11			負の個数= 2

Q7-2 担当の役割について

Q7-2前	Q7-2後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	1	2	2				5
2:あまりわからない		6	7	1			14
3:少しわかる		2	3	4			9
4:わかる			1	1	1		3
5:よくわかる							0
-99:無回答			1	2			3
総計	1	10	14	8	1	0	34
正の個数=	17		0=	11			負の個数= 3

Q7-3 予算の確保について

		Q7-3後					
Q7-3前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	総計
1:わからない	2	4	4				10
2:あまりわからない	2	6	5	1			14
3:少しわかる			3	1			4
4:わかる							0
5:よくわかる			2	1			3
-99:無回答		1	1	1			3
総計	4	11	15	4	0	0	34
正の個数=	15		0=	11		負の個数=	5

Q7-4 策定委員の公募について

		Q7-4後					
Q7-4前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	総計
1:わからない	5	3	2	1			11
2:あまりわからない	1	6	7				14
3:少しわかる		1	3	1			5
4:わかる			1				1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	1	1			3
総計	6	11	14	3	0	0	34
正の個数=	14		0=	14		負の個数=	3

### Q7-5 障害施策の課題や目指す方向の整理の仕方

Q7-5後							総計
Q7-5前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	
1:わからない	5	3	3				11
2:あまりわからない	2	3	10	1			16
3:少しわかる			1	2			3
4:わかる							0
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	2	1			4
総計	7	7	16	4	0	0	34
正の個数=	19		0=	9			負の個数= 2

### Q7-6 プロポーザルの方法

Q7-6後							総計
Q7-6前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	
1:わからない	4	6	3				13
2:あまりわからない		6	7	1			14
3:少しわかる			3				3
4:わかる				1			1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	1			1	3
総計	4	13	14	2	0	1	34
正の個数=	17		0=	14			負の個数= 0

Q7-7 計画作成のための組織について

Q7-7前	Q7-7後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	2	6	2				10
2:あまりわからない	1	6	6	1			14
3:少しわかる		1	4	1			6
4:わかる				1			1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1				2	3
総計	3	14	12	3	0	2	34
正の個数=	16		0=	13		負の個数=	2

Q7-8 アンケートの作成方法について

Q7-8前	Q7-8後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	2	4	1				7
2:あまりわからない		8	3	1			12
3:少しわかる			9				9
4:わかる				2			2
5:よくわかる				1			1
-99:無回答				1		2	3
総計	2	12	13	5	0	2	34
正の個数=	9		0=	21		負の個数=	1

### Q7-9 見込み量の算出方法について

Q7-9前	Q7-9後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	6	5	1				12
2:あまりわからない	1	10	4				15
3:少しわかる			2	1			3
4:わかる							0
5:よくわかる					1		1
-99:無回答		2				1	3
総計	7	17	7	1	1	1	34
正の個数=	11		0=	19			負の個数= 1

### Q7-10 会議の実施方法について

Q7-10前	Q7-10後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	1	4	2				7
2:あまりわからない	1	9	5	3			18
3:少しわかる		2	3				5
4:わかる							0
5:よくわかる				1			1
-99:無回答		1	1			1	3
総計	2	16	11	4	0	1	34
正の個数=	14		0=	13			負の個数= 4

### Q7-11 見える化について

		Q7-11後					
Q7-11前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	総計
1:わからない	5	2	2				9
2:あまりわからない		8	4				12
3:少しわかる		1	5	2	1		9
4:わかる					1		1
5:よくわかる							0
-99:無回答			1	1		1	3
総計	5	11	12	3	2	1	34
正の個数=	12		0=	18		負の個数=	1

### Q7-12 パブコメについて

		Q7-12後					
Q7-12前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	総計
1:わからない	4	7	1				12
2:あまりわからない		8	4				12
3:少しわかる		1	5	1			7
4:わかる							0
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	1			1	3
総計	4	17	11	1	0	1	34
正の個数=	13		0=	17		負の個数=	1

### Q7-13 議会への報告について

Q7-13後							総計
Q7-13前	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる	-99:無回答	
1:わからない	8	8					16
2:あまりわからない	1	6	5				12
3:少しわかる		1					1
4:わかる				1	1		2
5:よくわかる							0
-99:無回答		1		1		1	3
総計	9	16	5	2	1	1	34
正の個数=	14		0=	15			負の個数= 2

### 3 マニュアルがあれば担当者として計画づくりをスムーズに進められるか

計画づくりのマニュアルを説明前後の個数の差はなかった。しかし、「マニュアルがあれば担当者として計画づくりをスムーズに進められるか」の問いに対して、説明前から、「思う」「少し思う」が全体の61.8%、「あまり思わない」「思わない」が32.3%、未回答5.9%でマニュアルがあれば計画づくりがスムーズに進められると回答している人が多かった。

#### 問8 マニュアルがあれば、担当者として計画づくりをスムーズにすすめることができますか。

Q8後							総計
Q8前	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり思わない	5:思わない	-99:無回答	
1:かなり思う							0
2:思う	2		3				5
3:少し思う		2	8	5	1		16
4:あまり思わない		1	4	2	2		9
5:思わない				1	1		2
-99:無回答			1	1			2
総計	2	3	16	9	4	0	34
正の個数=	11		0=	11			負の個数= 10

#### 第4節 考察

計画づくりマニュアルについては、保健師等が事業実施の際にマニュアルを活用した後に効果を検証することはできなかった。しかし、計画づくりマニュアルの説明後に知識が向上し、計画づくりに対して意識がプラスに向上した。このことは、マニュアルの一定の効果を示していると推察する。

## 第Ⅲ部 全体的考察

### 第5章 全体的考察

#### 第1節 本論文の結論

本研究の目的は、障害福祉分野の計画づくりや多職種の自主勉強会等の実践から、保健師が計画づくりや事業の企画をする際に必要な知識を明らかにし、保健師活動の本質である「地域をみる、つなぐ、動かす」ための活動を多職種や市民と協働して行えるような知識と技術の向上を図ることであった。

本研究では、事例検討を取り入れた組織横断的会議の実施では、参加者が障害者の立場に立って思いを共有できたと推察している。また、保健師等が計画づくりをすすめていくために学習したい内容は、①計画作成の流れ ②スケジュール管理 ③会議の運営方法 ④過去のデータをどのように生かすのか ⑤当事者の意見をどのようにヒヤリングするのか ⑥アンケートの作成の方法 ⑦アンケート結果の分析 ⑧会議や検討の論点を明確にする方法 ⑨資料の作成方法 ⑩評価の仕方であることが明らかになった。

学習したい項目を記述した計画づくりマニュアルを説明することで、説明後のほうが「忙しいのでやりたくない」「知識がなく不安なのでやりたくない」の問いについて、「あまり思わない」「思わない」等の気持ちがプラスになった。また、計画づくりマニュアルの項目のうち、「スケジュール」「担当の役割」「予算の確保」「策定委員の公募」「障害施策の課題や目指す方向の整理の仕方」「プロポーザルの方法」「計画策定のための組織」「アンケートの方法」「見込み量の算出方法」「会議の実施方法」「見える化」「パブコメ」「議会への報告」の内容の知識が向上した。今回作成したマニュアルは、職員の知識や計画づくりの作成に対する気持ちがプラスの方向に向くことが明らかになった。

ただし、計画づくりマニュアルの効果は、勉強会に参加した職員の調査であり、保健師に限定していないことから、上記は保健師以外の職種の結果に影響されている可能性が考えられる。

しかし、今回の研究によって保健師の活動の本質である「地域をみる、つなぐ、動かす」ために、計画づくりマニュアルは多職種が知識や情報を共有し施策を協議するうえで、一定の効果があると考えられることができる。

## 第2節 今後の課題

本研究では、保健師が多職種と連携し課題を共有しながら進めていく手引書としてマニュアルを作成したが、実際に活用し保健師活動の「みる」「つなぐ」「動かす」ことに繋がったかを検証することができなかった。また、アンケート調査については、調査対象者の保健師数が少ないこと個人が特定されることに配慮し、多職種も交えた調査となった。今後は、本研究で作成した計画づくりマニュアルの内容を実際に保健師等と事業を進めながら充実させ効果を検証し保健師の人材育成を進めていく必要がある。

#### 第IV部 引用文献

- 坪内美奈・大川眞智子・岩村龍子（2007）．看護系大学教員が行政保健師と行なう共同研究による共同の進め方とその意味．岐阜県立看護大学紀要医，**8**，1．
- 種村真衣・松下光子・大川眞智子・山田洋子・大井靖子（2013）．活動評価方法の開発に向けた保健師活動評価に関する文献の検討，**13**，1．
- 江本リナ（2000）．自己効力感の概念分析．日本看護科学会誌，**20**，2，39－45．
- 田中美延里・小野ミツ・小西美智子（2005）．先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達－離島の町の保健師のライフヒストリーから－．広島大学保健学ジャーナル，**5**，1，16－27．
- 高橋美美・高尾俊弘（2007）．保健師の地域診断実践に影響する要因に関する研究．高知大学学術研究報告，**56**．
- 松尾睦（2010）．保健師の経験学習に関する探究的研究．
- 公益社団法人 日本看護協会（2011）．自治体保健師の現状と課題について－保健師の活動基盤に関する基礎調査の結果から－
- 松下光子・石丸美奈・山田洋子（2012）．行政保健師が実践経験を通して得ている保健師活動の学び．岐阜県立看護大学紀要，**12**，1
- 厚生労働省（2011）．新人看護職員研修ガイドライン－保健師編－
- 上木隆人・尾島俊之・平野かよ子・佐々木隆一郎・中板育美・松島郁子・山田圭子・太田佐代子（2013）．保健師活動の効果を科学的に評価する指標に関する研究．
- 門間晶子（2000）．保健師のエンパワーメントの構造と規定要因の分析．日本看護科学会誌，**20**，2，11－20．
- 高野美代子（2011）．地域住民の健康エンパワメント－介護予防意識と協働のあり方－．豊橋創造大学紀要，**15**，145－156
- 公益社団法人 日本看護協会（2014）．市町村保健活動のあり方に関する検討報告書Ⅲ

## 謝辞

本調査にご協力いただいた三重県桑名市の計画づくり作成有志の皆様には深く感謝をいたします。また、市民参加型計画づくりについてご指導くださった長崎大学東京事務所広報戦略本部准教授医学博士の堀口 逸子先生に感謝いたします。

## 資料目次

資料1 計画づくりに関する調査

資料2 計画づくりに関する調査結果

資料3 初版 全員参加型計画づくりマニュアル

別冊 第3期桑名市障害者計画及び第4期障害福祉計画

**資料 1****計画づくりに関する調査****(マニュアル説明前)**

このアンケートは、計画作成について、職員がどのようにすすめていけばよいのかについて分析するための資料データとして活用させていただきたいと考えております。結果は、全市にフィードバックし、今後の事務改善に反映できるようにと考えております。調査にご協力頂きますようによろしく申し上げます。

**調査倫理に係わる注意事項**

- ・ この調査への参加は強制されるものではありません。
- ・ 答えたくない質問がある場合には、その質問をとばして次の質問に移ってください。
- ・ 回答を途中でやめなくなった場合には、すぐにやめてもかまいません。
- ・ 回答しなかったり、回答を途中でやめたりしても、いかなる不利益も生じません。
- ・ 調査の結果は、統計データとして研究目的以外に用いることはございません。個人の回答がそのままの形で公開されることはありません。
- ・ 回答の処理からデータ保管と処分まで、回答は厳重に保護されます。

\* 注意事項をご理解の上、調査にご協力いただける場合は、1の質問にお進みください。

\* アンケートへの記入をもって、回答に同意いただいたとさせていただきます

**問 1 あなたの性別をお聞かせ下さい。**

1. 男性    2. 女性

**問 2 あなたは、「計画づくり」の担当をするように打診されたら**

どのように思いますか。1～5のうち、あてはまるものひとつに○を

つけてください。

	かなり 思う	思う	少し 思う	あまり 思わない	思 わない
1 . 忙しいのでやりたくない	1	2	3	4	5
2 . 知識がなく不安なのでやりたくない	1	2	3	4	5
3 . 企画力がないのでやりたくない	1	2	3	4	5
4 . あたえられた仕事なのでやらなければならないと思う	1	2	3	4	5
5 . 誰かがやらないといけないのでやる	1	2	3	4	5
6 . 良い経験になると思う	1	2	3	4	5
7 . 面白そうなのでやってみたい	1	2	3	4	5

**問3 あなたが計画づくりの担当をするとしたら、必要なものは何ですか。(○は3つ)**

1. 知識                      2. 仕事の経験 (計画以外も含めて)                      3. 経験 (計画作成)  
 4. チームワーク      5. 時間                      6. 文書能力                      7. 企画力                      8. 相談相手  
 9. 担当する質的なメリット                      10. その他 (                      )

**問4 あなたが計画をすすめていくうえで、重要だと思うことは何ですか。(○は3つ)**

1. 課題の共有                      2. スケジュール管理                      3. 事前の準備                      4. 知識  
 5. 経験                      6. 時間                      7. 計画の方向性                      8. 情報  
 9. わからない      10. その他 (                      )

**問5 あなたは計画を、何人のスタッフで担当すれば効率がよいと思いますか。(○は1つ)**

1. 1人      2. 2人      3. 3人      4. 4人      5. 5人以上

**問6 あなたは全員参加の計画づくりとはどのようなイメージがありますか。1～5のうち、あてはまるものひとつに○をつけてください。**

	思わない	あまり思わない	少し思う	思う	かなり思う
1 . 課の職員全員で仕事の分担をすること	1	2	3	4	5
2 . 計画づくりのスケジュールを知っていること	1	2	3	4	5
3 . 担当者から依頼があれば協力すること	1	2	3	4	5
4 . 事業の担当の部分について会議に参加すること	1	2	3	4	5
5 . 事業の担当の部分について意見を言うこと	1	2	3	4	5
6 . 計画づくりの内容について定期的に進捗状況がわかること	1	2	3	4	5

問 7 あなたは計画を作成する際に、1 から 13 までの項目について

どのように実施していけばよいかわかりますか。

右の答え1～5のうち、あてはまるものひとつに

○をつけてください。

	わからない	あまりわからない	少しわかる	わかる	よくわかる
1 . スケジュールについて	1	2	3	4	5
2 . 担当者の役割について	1	2	3	4	5
3 . 予算の確保について	1	2	3	4	5
4 . 策定委員の公募について	1	2	3	4	5
5 . 障害施策の課題や目指す方向性の整理の仕方	1	2	3	4	5
6 . プロポーザルの方法	1	2	3	4	5
7 . 計画作成のための組織について	1	2	3	4	5
8 . アンケートの作成方法について	1	2	3	4	5
9 . 見込み量の算出方法について	1	2	3	4	5
10 . 会議の実施方法について	1	2	3	4	5
11 . 見える化について	1	2	3	4	5
12 . パブコメについて	1	2	3	4	5
13 . 議会への報告について	1	2	3	4	5

問8 あなたは、障害者計画・障害福祉計画作成のマニュアルがあれば、担当者として計画づくりを

スムーズに進めることができますか。(○は1つ)

1. 思わない    2. あまり思わない    3. 少し思う    4. 思う    5. かなり思う

資料2

計画づくりに関する調査結果

計画づくりマニュアル説明前後の計画づくりに関する調査結果

問1 回答者の性別数

	1:男	2:女	総計
人数	5	29	34

問2 計画づくりの担当打診されたらどのように思うか

Q2-1 忙しいのでやりたくない

Q2-1前	Q2-1後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	4						4
2:思う		5	4	1			10
3:少し思う			9	3			12
4:あまり 思わない				6		1	7
5:思わない							0
-99:無回答				1			1
総計	4	5	13	11	0	1	34
正の個数=	8		0=	24		負の個数=	0

Q2-2 知識がなく不安なのでやりたくない

Q2-2前	Q2-2後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	4	2	2				8
2:思う		4	6	2			12
3:少し思う			5	2			7
4:あまり 思わない				5			5
5:思わない							0
-99:無回答			1	1			2
総計	4	6	14	10	0	0	34
正の個数=	14		0=	18		負の個数=	0

Q2-3 企画力がないのでやりたくない

Q2-3前	Q2-3後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	2	2					4
2:思う		7	6				13
3:少し思う			3	4			7
4:あまり 思わない			2	7			9
5:思わない							0
-99:無回答				1			1
総計	2	9	11	12	0	0	34
正の個数=	12		0=	19		負の個数=	2

**Q2-4 与えられた仕事なのでやらなければならない**

Q2-4前	Q2-4後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	3	1					4
2:思う		13	5	1			19
3:少し思う	1	5	5				11
4:あまり 思わない							0
5:思わない							0
-99:無回答							0
総計	4	19	10	1	0	0	34
正の個数=	7		0=	21			負の個数= 6

**Q2-5 誰かがやらないといけないのでやる**

Q2-5前	Q2-5後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	1	1					2
2:思う	2	5	2		1		10
3:少し思う	2	3	7	4			16
4:あまり 思わない			1	2	1		4
5:思わない				1			1
-99:無回答			1				1
総計	5	9	11	7	2	0	34
正の個数=	9		0=	15			負の個数= 9

**Q2-6 良い経験になると思う**

Q2-6前	Q2-6後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う	5	3					8
2:思う	4	8	1				13
3:少し思う		6	6	1			13
4:あまり 思わない							0
5:思わない							0
-99:無回答							0
総計	9	17	7	1	0	0	34
正の個数=	5		0=	19			負の個数= 10

Q2-7 面白そうなのでやってみたい

Q2-7前	Q2-7後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う							0
2:思う		1	2				3
3:少し思う		2	9	1			12
4:あまり 思わない		1	9	4			14
5:思わない				1	2		3
-99:無回答	1	1					2
総計	1	5	20	6	2	0	34
正の個数=	3		0=	16			負の個数= 13

問3 計画づくりの担当をすとしたら、必要なもの

	知識	仕事の経験	経験	チームワーク	時間	文書能力	企画力	相談相手	メリット	その他
件数	19	13	6	28	6	2	18	10	0	0

問4 計画を進めていくうえで重要だと思うこと

	課題の共有	スケジュール管理	事前の準備	知識	経験	時間	計画の方向性	情報	わからない	その他
件数	23	21	13	8	3	5	16	10	0	0

問5 効率の良いスタッフ数は

	1人	2人	3人	4人	5人以上
件数		1	11	11	11

Q6-2 計画づくりのスケジュールを知っていること

Q6-2前	Q6-2後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う							0
2:思う				1			1
3:少し思う				5			5
4:あまり 思わない			2	12	2		16
5:思わない			1	5	5		11
-99:無回答						1	1
総計	0	0	3	23	8	0	34
正の個数=	8		0=	17			負の個数= 8

**Q6-3 担当者から依頼があれば協力すること**

Q6-3前	Q6-3後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う		1					1
2:思う		2					2
3:少し思う			1	1	1		3
4:あまり 思わない			2	14	2		18
5:思わない				4	5		9
-99:無回答					1		1
総計	0	3	3	19	9	0	34
正の個数=	5		0=	22			負の個数= 6

**Q6-4 事業の担当の部分について会議に参加すること**

Q6-4前	Q6-4後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う							0
2:思う		2					2
3:少し思う			1	3			4
4:あまり 思わない			3	12	1		16
5:思わない			4	3	4		11
-99:無回答					1		1
総計	0	2	8	18	6	0	34
正の個数=	4		0=	19			負の個数= 10

**Q6-5 事業の担当の部分について意見を言うこと**

Q6-5前	Q6-5後					-99:無回答	総計
	1:かなり思う	2:思う	3:少し思う	4:あまり 思わない	5:思わない		
1:かなり思う			1				1
2:思う		1		1			2
3:少し思う			2	2			4
4:あまり 思わない			7	9	1		17
5:思わない				4	5		9
-99:無回答				1			1
総計	0	1	10	17	6	0	34
正の個数=	5		0=	17			負の個数= 11

**Q6-6 計画づくりの内容について定期的に進捗状況がわかること**

Q6-6前	Q6-6後					-99: 無回答	総計
	1: かなり思う	2: 思う	3: 少し思う	4: あまり 思わない	5: 思わない		
1: かなり思う							0
2: 思う				1			1
3: 少し思う			2				2
4: あまり 思わない			2	17	1		20
5: 思わない				5	5		10
-99: 無回答					1		1
総計	0		4	23	7	0	34
正の個数=	2		0=	24		負の個数=	7

**問7. 計画を作成する際にどのように実施していけばよいかわかりますか**

**Q7-1 スケジュールについて**

Q7-1前	Q7-1後					-99: 無回答	総計
	1: わからない	2: あまりわからない	3: 少しわかる	4: わかる	5: よくわかる		
1: わからない	1	1	4				6
2: あまりわからない	1	4	11				16
3: 少しわかる			5	1			6
4: わかる			1	1	1		3
5: よくわかる							0
-99: 無回答			1	2			3
総計	2	5	22	4	1	0	34
正の個数=	18		0=	11		負の個数=	2

**Q7-2 担当の役割について**

Q7-2前	Q7-2後					-99: 無回答	総計
	1: わからない	2: あまりわからない	3: 少しわかる	4: わかる	5: よくわかる		
1: わからない	1	2	2				5
2: あまりわからない		6	7	1			14
3: 少しわかる		2	3	4			9
4: わかる			1	1	1		3
5: よくわかる							0
-99: 無回答			1	2			3
総計	1	10	14	8	1	0	34
正の個数=	17		0=	11		負の個数=	3

### Q7-3 予算の確保について

Q7-3前	Q7-3後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	2	4	4				10
2:あまりわからない	2	6	5	1			14
3:少しわかる			3	1			4
4:わかる							0
5:よくわかる			2	1			3
-99:無回答		1	1	1			3
総計	4	11	15	4	0	0	34
正の個数=	15		0=	11			負の個数= 5

### Q7-4 策定委員の公募について

Q7-4前	Q7-4後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	5	3	2	1			11
2:あまりわからない	1	6	7				14
3:少しわかる		1	3	1			5
4:わかる			1				1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	1	1			3
総計	6	11	14	3	0	0	34
正の個数=	14		0=	14			負の個数= 3

### Q7-5 障害施策の課題や目指す方向の整理の仕方

Q7-5前	Q7-5後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	5	3	3				11
2:あまりわからない	2	3	10	1			16
3:少しわかる			1	2			3
4:わかる							0
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	2	1			4
総計	7	7	16	4	0	0	34
正の個数=	19		0=	9			負の個数= 2

### Q7-6 プロポーザルの方法

Q7-6前	Q7-6後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	4	6	3				13
2:あまりわからない		6	7	1			14
3:少しわかる			3				3
4:わかる				1			1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1	1			1	3
総計	4	13	14	2	0	1	34
正の個数=	17		0=	14			負の個数= 0

### Q7-7 計画作成のための組織について

Q7-7前	Q7-7後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	2	6	2				10
2:あまりわからない	1	6	6	1			14
3:少しわかる		1	4	1			6
4:わかる				1			1
5:よくわかる							0
-99:無回答		1				2	3
総計	3	14	12	3	0	2	34
正の個数=	16		0=	13			負の個数= 2

### Q7-8 アンケートの作成方法について

Q7-8前	Q7-8後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	2	4	1				7
2:あまりわからない		8	3	1			12
3:少しわかる			9				9
4:わかる				2			2
5:よくわかる				1			1
-99:無回答				1		2	3
総計	2	12	13	5	0	2	34
正の個数=	9		0=	21			負の個数= 1

### Q7-9 見込み量の算出方法について

Q7-9前	Q7-9後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	6	5	1				12
2:あまりわからない	1	10	4				15
3:少しわかる			2	1			3
4:わかる							0
5:よくわかる					1		1
-99:無回答		2				1	3
総計	7	17	7	1	1	1	34
正の個数=	11		0=	19			負の個数= 1

### Q7-10 会議の実施方法について

Q7-10前	Q7-10後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	1	4	2				7
2:あまりわからない	1	9	5	3			18
3:少しわかる		2	3				5
4:わかる							0
5:よくわかる				1			1
-99:無回答		1	1			1	3
総計	2	16	11	4	0	1	34
正の個数=	14		0=	13			負の個数= 4

### Q7-11 見える化について

Q7-11前	Q7-11後					-99:無回答	総計
	1:わからない	2:あまりわからない	3:少しわかる	4:わかる	5:よくわかる		
1:わからない	5	2	2				9
2:あまりわからない		8	4				12
3:少しわかる		1	5	2	1		9
4:わかる					1		1
5:よくわかる							0
-99:無回答			1	1		1	3
総計	5	11	12	3	2	1	34
正の個数=	12		0=	18			負の個数= 1

Q7-12 パブコメについて

Q7-12後							総計
Q7-12前	1: わからない	2: あまりわからない	3: 少しわかる	4: わかる	5: よくわかる	-99: 無回答	
1: わからない	4	7	1				12
2: あまりわからない		8	4				12
3: 少しわかる		1	5	1			7
4: わかる							0
5: よくわかる							0
-99: 無回答		1	1			1	3
総計	4	17	11	1	0	1	34
正の個数=	13		0=	17			負の個数= 1

Q7-13 議会への報告について

Q7-13後							総計
Q7-13前	1: わからない	2: あまりわからない	3: 少しわかる	4: わかる	5: よくわかる	-99: 無回答	
1: わからない	8	8					16
2: あまりわからない	1	6	5				12
3: 少しわかる		1					1
4: わかる				1	1		2
5: よくわかる							0
-99: 無回答		1		1		1	3
総計	9	16	5	2	1	1	34
正の個数=	14		0=	15			負の個数= 2

問8 マニュアルがあれば、担当者として計画づくりをスムーズにすすめることができますか。

Q8後							総計
Q8前	1: かなり思う	2: 思う	3: 少し思う	4: あまり 思わない	5: 思わない	-99: 無回答	
1: かなり思う							0
2: 思う	2		3				5
3: 少し思う		2	8	5	1		16
4: あまり 思わない		1	4	2	2		9
5: 思わない				1	1		2
-99: 無回答			1	1			2
総計	2	3	16	9	4	0	34
正の個数=	11		0=	11			負の個数= 10